



軽金属に関する研究成果は

「軽金属」にご投稿ください

研究論文投稿数が
減少しています

講演大会の座長意見に基づく編集委員会の
投稿勧誘を受けた方が第一著者として

投稿勧誘の連絡日から6か月以内に投稿した場合

投稿・掲載料無料

第一著者が学生会員

の研究論文は
「軽金属」
投稿・掲載料無料

図のカラー印刷

著者負担は
従来の半額
25,000円/ページ

英訳投稿可

「軽金属」掲載後
1年以内の研究論文は
共同刊行誌“Materials
Transactions”に英訳投稿可

和訳論文は投稿・掲載料無料

軽金属学会から“Materials
Transactions”に掲載可決定後
1か月以内に投稿された
和訳論文は投稿・掲載料無料

執筆要領 改訂

- ・投稿審査システムを利用した投稿手順をわかりやすく
- ・「軽金属」誌の特徴を生かした論文作成の参考になるよう軽金属材料の表記方法を執筆要領の別紙で例示

詳細は<http://www.jilm.or.jp/>

「軽金属」は

Scopus (スコープス) に収録されています

<http://jp.elsevier.com/online-tools/scopus>

「軽金属」の執筆要領の改訂

Revision of the manuscript instructions for KEIKINZOKU

学会便り

小山 克己*

Katsumi KOYAMA*

会誌「軽金属」では、平成24年より電子投稿審査システム（J-STAGE Editorial Manager）を用いた投稿に変更しました。投稿審査システムを利用した投稿に当たっての疑問や問題点の指摘に 대응するため、今回「軽金属」執筆要領を大きく改訂しました。以下、執筆要領各項目の変更点や注意点を紹介します。

1. 原稿の作成

投稿いただく原稿は「軽金属」投稿規程、著作権規程やこの執筆要領に準拠していることが必要条件となります。すべての著者は原稿の作成前にこれら規程類の確認をお願いします。

2. 原稿の構成

標題は“簡潔でしかも論文の内容を適切に表す”との要請のもとに、これまでも供試材名の記載を求めていましたが、今回、執筆要領に明記しました。簡潔性が必要ですが、軽金属の金属種すら読者が容易に理解できない略語や記号のみの材料名、商品名は避けてください。本文については、上限が設けられている刷上がりページ数の目安や査読時の指示位置の明確化のため、電子投稿でも原稿の細かな様式を定めています。さらに、明瞭な刷上りが得るため、図表のサイズや解像度、図中の文字の大きさなどを規定しました。

3. 投稿

本システムへの投稿作業はすべての著者を代表する責任著者が行います。共著の場合は、筆頭著者や責任著者を投稿前に決めてください。ユーザー登録、ログインから原稿ファイルのアップロードまでの投稿作業は、画面指示に従って進めることができます。ここでは入力ミスが懸念されるため、必要事項はすべての著者が確認した原稿からコピー・アンド・ペーストで入力することを推奨します。図表や本文のファイルは、まとめてManuscript（論文原稿）にアップロードします。図表が本文と異なるファイル形式の場合などでは、Figure（図）やTable（表）に分けてアップロードすることもできます。アップロードした原稿をPDF化し、その表示の確認と「軽金属」への著作権移管等にかかわる同意とともに事務局へ送信いただくと投稿作業は完了します。なお、本システムでは入力者が責任著者に設定されています。著者情報の入力段階で責任著者を変更すると次回以降、この入力者はシステム内で本投稿に関与できなくなります。新たな責任著者にシステム上の処理を引き継いでいただくこととなりますので注意してください。

4. 表記方法に関する注意

時代とともに日本語も変化することから表記方法を別紙とし、共通性の高い基本用語と「軽金属」における慣用的ある

いは専門的な用語とに分けました。

4.1 基本用語（執筆要領 別紙1）

一般社会生活における日本語表記については公用文の書き表し方の指針が、また数量や単位などの表記については国際的な流れに沿った日本工業規格（JIS）等の規程があり、これまで通り「軽金属」の原稿も学術・専門用語を除いて、原則これに従っていただくことになります。

4.2 学術・専門用語（執筆要領 別紙2）

科学や技術などの専門分野における表記については既存の用語集に頼ることになります。しかし「軽金属」の慣用句となじまない表記は、常用漢字外の漢字の使用も含めて随時検討することとし、“用語集に原則従う”との記述としました。

元素名は、普通教育で使用されている学術用語表記を基準とし、和名における常用漢字外の漢字使用や“アルミ”のようなカタカナ表記の省略形は控えていただきます。ただ元素記号を用いた簡略表記が散見されますので、“Al合金”のような主元素を表す表記を除いて、“Al添加”のような添加元素で形容詞的用法では許容することとしました。一方合金は、元素記号とハイフンを用いた表記（Al-Mg合金等）を基本とします。SI単位体系の考え方に反していますが、「軽金属」では慣例に従って、百分率（%）を用いて組成数値を表すことを規程に明記しました。

一方、JIS等の工業規格品を使用する研究事例が増えています。規格が定める合金番号や記号は、主成分のみの表記よりも情報量が増すこととなります。しかし専門分野外あるいは学側の読者にはなじみの薄い規格記号も多いことから、これまで通り標題や本文初出時には軽金属の金属種を明示してください。規格に規定されている微量添加元素や地金に含まれる不純物元素が特性に大きく影響する場合があります。そのため実験室等で高純度地金を用いて溶製した合金を類似の規格品を表す合金番号や記号、あるいはそれらを模した独自の記号で表記すると、誤った詳細情報を読者に与えることとなりますので、避けてください。また、“純アルミニウム”という表記に、“アルミニウム”と同様に“アルミニウム合金”との区分のためだけの意味合いとともに、普通地金を用いた低い純度、あるいは逆に高純度地金や試薬を用いた著しく高い純度をイメージされる読者がいることが分かりました。そのためいずれの軽金属種においても、単に“純”を付けた表記は避け、より具体的な純度範囲が示される表記を選択されるようにお願いします。

時代の変化に伴い表記方法についても適宜見直しますので、原稿執筆時には最新版の執筆要領をお手元にご準備いただくようにお願いします。